

海の生きもの観察ノート①

# 磯でみられる エビ・ヤドカリ・カニ



千葉県立中央博物館分館  
海の博物館

# はじめに

千葉県立中央博物館 分館海の博物館では、平成 11 年 3 月の開館以来、主に千葉県勝浦市の海岸において、磯の生きものに触れあいながら楽しく学んでいただくための観察会を数多く催してきました。その実施経験を活かし、平成 13 年 3 月には学校など団体の指導者に向けた「磯の生きもの観察会 実施マニュアル」を刊行しました。

磯にはさまざまな生きものがいます。そしてその観察のポイントも、生きものの種類ごとにちがいます。そこでこの度、具体的な観察のしかたを紹介した「海の生きもの観察ノート」を製作することになりました。第 1 号の今回は、南房総の磯でみられるエビやヤドカリ、カニなどの“甲殻類”を取り上げます。磯の人気者、エビ・ヤドカリ・カニについてくわしく知ることができれば、磯でのひとときはさらに楽しくなるでしょう。

この冊子では、名前の調べ方・観察方法などをわかりやすく紹介しています。また、南房総の磯で観察できる甲殻類は日本沿岸に広く分布しているため、その他の地域で観察する場合にも利用できます。本冊子を片手に磯へでかけ、エビやカニに親しんでいただければ幸いです。

## 目次

はじめに .....	2
① エビ・ヤドカリ・カニってどんな生きもの?.....	3
② エビ・ヤドカリ・カニのさがし方 .....	4
③ かたちを観察する .....	5
④ 暮らしを観察する .....	8
⑤ 磯でみられるエビ・ヤドカリ・カニ図鑑 .....	10
⑥ 参考図書 .....	23

### 表紙の説明

表：上 サラサエビ（解説は 10 ページ）

下 ケブカヒメヨコバサミ（解説は 14 ページ）

裏：カネココブシ（解説は 16 ページ）

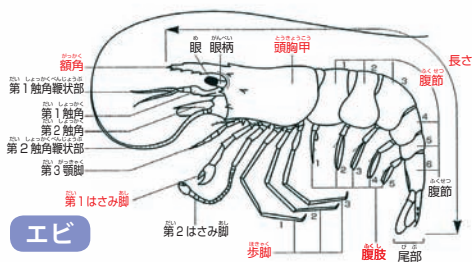
磯の人気者、エビやカニ。これらはまとめて「甲殻類」と呼ばれています。はじめに、甲殻類とはどのような生きものなのかを体のつくりから見てみましょう。

甲殻類は、「節足動物」というグループの中の一群です。節足動物は、体が頭部、胸部、腹部にはっきり分かれ、それぞれに付属肢（触角や脚など）をもつ動物の総称です。甲殻類は、頭部がいくつかの節によって構成されていることや、頭部にある触角や顎の数などの特徴によって、他の節足動物と区別できます。ちなみに、その他の節足動物には昆虫やクモ、ムカデなどがいます。

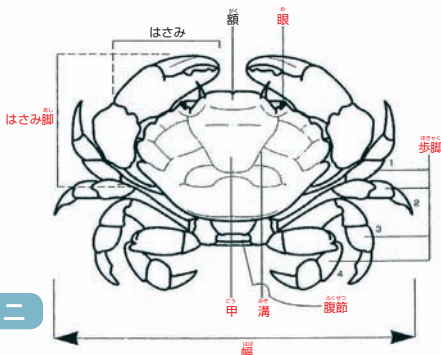
## ● エビ・ヤドカリ・カニの体のつくり

甲殻類は、甲や顎、脚のつくりによってさらにグループが分かれます。磯で見られるエビ・ヤドカリ・カニはすべて「十脚類（目）」というグループに含まれます（10ページの表参照）。胸部にあるはさみ脚や歩脚を「脚脚」といい、その数が左右あわせて10本であることが「十脚類」と呼ばれる由来です。

見た目の明らかながいから、十脚類はエビ型・ヤドカリ型・カニ型に分けられます。これらの大きながいは「腹節」の形です。エビ型ではこれが発達し、ひとつひとつの節が目立ちます。ヤドカリ型では右側にねじれており、また、節ははっきりしません。カニ型では腹節が胸の下に折りたたまれ、薄くなっています。

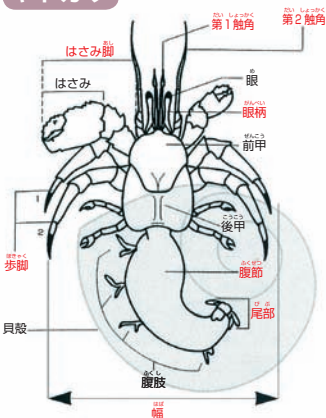


エビ



カニ

## ヤドカリ



## エビ・ヤドカリ・カニの体のつくり

本文中に出てくる体各部の名称は、赤字で示しています。

(このページの図は「エビ・カニガイドブック 伊豆諸島・八丈島の海から」(阪急コミュニケーションズ)を改変したものです)

**観察の第一歩は、磯でエビやカニを“さがし出す”ことです。ちょっとしたコツさえつかめば、難しいことではありません。誰にでも簡単にエビやカニを見つけることができます。**

潮だまりをのぞくと、目につくのは歩き回っているヤドカリばかりで、その他のエビやカニの姿はほとんど見えません。多くのエビやカニは物かげに隠れているためです。潮だまりの底にある石をそっとおこし、その下を見てみましょう。オウギガニの仲間やヒライソガニを観察することができます。また、透明なイソスジエビやスジエビモドキも、驚いて動きだすため、見つけやすくなります。さらに、潮だまりの中だけでなく、潮だまりをかこむ岩の割れ目ものぞいてみましょう。イワガニと目があうかも知れません。



石をおこしてみよう。この冊子で紹介しているほとんどの種類はこの方法で見つけたものです。さがした後は石をもとにもどしましょう。

### ★これも甲殻類

磯では、エビやカニ以外の甲殻類も観察することができます。岩に着いているフジツボ類は貝の仲間と思われがちですが、山型の殻の中は小さなエビのような形になっており、れっきとした甲殻類です。また、岩の上を集団ではっているフナムシも甲殻類の仲間です。これらは、体の節の数はエビやカニと同じですが、胸部に備わる脚の形とその役割が異なります。したがってどちらも十脚類とは別の甲殻類に含まれます。



クロフジツボ



フナムシ

### ★危険！カニのはさみに注意

潮だまりにある大きめの石をおこすと、大きく鋭いはさみもち、体の幅が10cmにもなるイシガニやベニツケガニなど（18ページ参照）を見つかることがあります。これらのカニは気が荒く、はさみを広げて攻撃するかまえをとります。不用意につかまえようとするとはさまれて思わぬケガをすることがありますので、十分注意をしながら観察しましょう。



大きくて鋭いフタバベニツケガニのはさみ

# 3

## かたちを観察する

エビやカニを見つけたら、その形や色をよく観察してみましょう。<sup>おす</sup>雄と雌で形がちがっていたり、よく似ていても種類のちがうものがあります。<sup>めす</sup>

### 雄と雌の見分け方

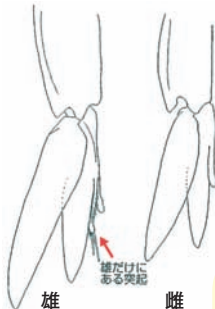
エビやカニは、雄と雌の形が少し異なります。潮だまりでの観察で、簡単に雄と雌を見分けることができるのはカニです。一般に「カニのふんどし」と呼ばれる腹節と尾部を見てみましょう。雄では細長くなっているのに対し、雌では幅広く、丸みを帯びています。エビとヤドカリの場合、雄と雌を区別するには顕微鏡を使う必要があります。野外での確認は困難ですが、参考までに触れておきましょう。潮だまりに多いイソスジエビやアシナガモエビモドキなどのエビの場合は、第2腹肢の雄だけに見られる<sup>とつき</sup>突起を確認します。またヤドカリでは、主に脚のつけ根（腹側）にある<sup>せいしよくこう</sup>生殖孔の位置によって雄と雌を見分けます。



カニの腹節と尾部(雄)

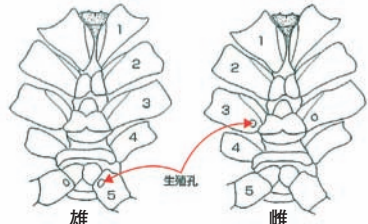


カニの腹節と尾部(雌)



雄 雌

エビの第2腹肢



ヤドカリの脚の基部（腹側）  
（番号は胸脚を表したもの）



エビ



ヤドカリ



カニ

たまごを抱えている雌

### ★たまごをもった雌

磯にすむエビやカニの雌は、こどもがたまごの中である程度成長するまで、たまごを腹節に抱えています。たまごを抱えているエビやカニを磯でみつけたら、それは間違いなく雌です。ただし、ヤドカリの場合、貝の中に腹節が隠れているので、貝から出さないとたまごの有無は確認できません。

## カニではないカニダマシ

食材として馴染みの深いタラバガニやハナサキガニはカニのような格好をしています。エビ・ヤドカリ・カニと分けた場合、カニよりもヤドカリに近い仲間です。潮だまりでも、イソカニダマシやコブカニダマシ（15 ページ参照）というヤドカリに近いカニ型の甲殻類を観察することができます。カニには左右のはさみの後ろに歩くための脚がそれぞれ4本ずつありますが、カニダマシでは3本ずつしか見えません。これはいちばん後ろ（5番目）の脚がとても短く、折りたたまれているためです。また、腹側を観察すると、尾部（腹節の先端）の形はカニと明らかに異なります。これらの特徴から、カニダマシはカニよりもヤドカリに近いとされています。



腹側からみたイソカニダマシ  
（番号は歩脚の数を表したもの）

## 潮だまりのヤドカリには二つのグループがある

潮だまりでみられる貝を背負うヤドカリは、左右のはさみ脚の大きさを比較することで二つの「科」に分けられます。「科」とはよく似た種類どうしをまとめた、生物の分類単位のひとつです。二つの科のうちのひとつは、左右のはさみ脚の大きさがほぼ同じか、左側のはさみ脚が右側に比べて大きいものです。これらはヤドカリ科です。もうひとつは、右側のはさみ脚が左側に比べて明らかに大きいもので、これらはホンヤドカリ科です。まずは左右のはさみ脚の大きさを比較して、どちらの科に含まれるのかを見分けると、ヤドカリの名前調べがより簡単になります。



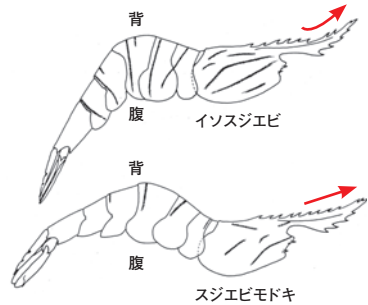
ヤドカリ科  
左右のはさみ脚の大きさがほぼ同じ



ホンヤドカリ科  
右側のはさみ脚が明らかに大きい

## よく似た種類の見分け方

磯には、じっくり観察してみないと種類を見あやまってしまう、似たもの同志のエビやカニがいます。ここでは、イソスジエビとスジエビモドキ（11ページ参照）を例として見分け方をみてみましょう。これらは、潮だまりの中で普通にみられる、長さ3～4cmほどのガラス細工のように透明なエビです。透明な容器などに入れて横からみると、体に黒いしま模様が入っていることがわかります。しまの数や入り方をよく観察してみましょう。しまが密にならび、その中の数本が背中から腹がわまでのびているものがイソスジエビです。しまがまばらで、背中から腹がわまでのびていないものがスジエビモドキです。さらによく比較すると、イソスジエビでは額角の先が上を向いて曲がっているのに対し、スジエビモドキではほぼまっすぐ前を向いています。



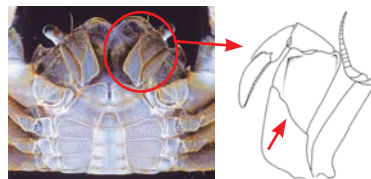
イソスジエビとスジエビモドキのしま模様のちがい

## カラーバリエーション

イソスジエビとスジエビモドキの例とは逆に、磯には同じ種類なのにまったく異なった模様を持っている甲殻類もいます。磯で最も数の多いカニ、ヒライソガニがそのひとつです。ヒライソガニは、波打ち際や潮だまりの底の石の下に隠れているカニで、狭い範囲の中でたくさん見られます。その色彩は、甲が白いもの、全体的に灰色のものなど、さまざまです。このカニがすんでいるところにはいろいろな色をした小石や砂利があり、ヒライソガニはこれにカモフラージュするために一匹一匹違った模様になっていると考えられています。模様だけを見ると別の種類のように見えますが、甲が平らなことをはじめ形はすべて同じです。判断に困ったときは、第3顎脚という節を見て下さい。斜めの関節を確認できれば、間違いなくヒライソガニです。このほか、オウギガニやトガリオウギガニにも同じ種類で模様が大きくちがうものがあります。



さまざまな色をもつヒライソガニ

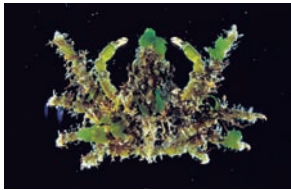


第3顎脚に斜めの関節がある（矢印）

潮だまりでは、身を守る知恵や成長の様子など、エビやカニの生活をかいま見ることができます。彼らのくらしぶりに注目しながら観察してみましょう。

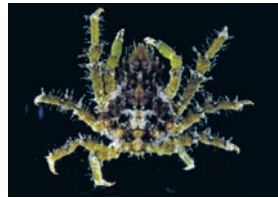
### ● カモフラージュを見やぶろう

潮だまりの中の岩や壁面などにびっしりはえている海藻をよく観察してみましょう。幅3cmくらいのイソクズガニがいることがあります。このカニは甲や脚に海藻の切れはしをつけ、海藻の上でじっとしています。海藻がはえた潮だまりの一部になりきっている、カモフラージュの達人です。



海藻をつけた状態から

海藻を取り除くと…



輪郭がはっきりしてカニであることがわかります

ぎし

### ● “擬死”を観察しよう

潮だまりにすむオウギガニの仲間、大きさや甲の形、色彩が石ころにそっくりです。これらのカニを手にとると、はさみや脚をお腹のほうに折りたたみ、死んだように動かなくなります。これを“擬死”といい、自分の体をより石ころらしく見せる、身を守るための手段のひとつと考えられています。オウギガニやトガリオウギガニ（19ページ参照）を見つけたときは、手のひらにのせて擬死を観察してみましょう。



擬死をするオウギガニ

だっぴから

### ● 脱皮殻を観察しよう

潮だまりなどで生きものを探していると、カニの死がいのようなものを見つけることがあります。これらの多くは死がいではなく、カニの脱皮殻です。エビやカニは成長の過程で脱皮によって何度も古い殻を脱ぎ捨てます。眼や脚のひとつひとつまでうまく脱ぎ捨てていますが、手にとって甲の後ろあたりをめくってみると、きれいに中身がないので、すぐに脱皮殻であることがわかります。



オウギガニの脱皮殻



## ● テッポウエビの音を聞こう

磯で耳をすますと、「パチン、パチン」という音を聞くことができます。これは、テッポウエビの仲間が身の危険を感じて敵をおどかす時などに鳴らす音です。この仲間は、第1はさみ脚のうち、特殊な仕組みをもつ大きなほうのはさみを使って音を出します。潮だまりの石の下をすばやくはい回る、イソテッポウエビやマダラテッポウエビ（12 ページ参照）を容器などに入れて、少しエビをつついてみましょう。小さなエビが出すものすごい音に驚かされます。



大きな音を出すマダラテッポウエビのはさみ

## ● ヤドカリの行動を観察しよう

潮だまりでは、ヤドカリが別のヤドカリをかかえ込んでいる姿を見かけることがあります。これは、かかえ込んでいるヤドカリが相手を貝殻から追い出し、自分がその殻に入り込もうとしているところです。ヤドカリは体の成長にあわせて貝殻を換えていきます。ちょうどいい空の貝殻が見つからないと、すでに別のヤドカリが使っている殻を奪おうとします。その際相手をかかえ込み、自分の殻を相手に強くぶつけます。相手がたまらず出てしまい、ねらった貝殻の入手に成功した場合、追い出されたほうは相手が使っていたお古の殻に引っ越します。殻の交換です。

また、ヤドカリが別のヤドカリを貝殻ごとつかんで歩き回る姿を観察することもあります。つかんでいるほうは雄で、運ばれているほうは雌です。これは他の雄に取られないよう、雌を確保するための行動で、「交尾前ガーディング」と呼ばれています。磯で最も数の多いホンヤドカリの場合、冬場によくみられます。



ホンヤドカリの交尾前ガーディング

## ● 漂流するカニ

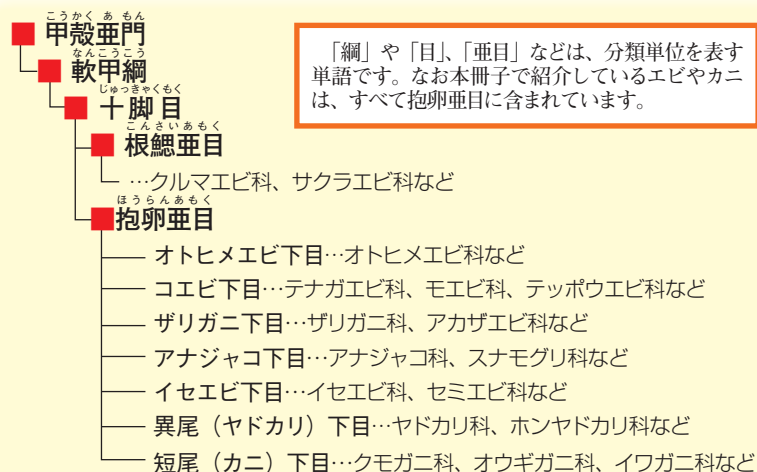
流れ藻（海底にはえていた海藻がちぎれて海面に浮いてしまったもの）や流木は、かなり長い間海面を漂流します。カニの中にはそれらを好んで生活の場とする種類がいます。イボショウジンガニやオキナガレガニ（22 ページ参照）がそれです。流れ藻などが磯に流れ着いたとき、普段磯では見ることのできないこれらのカニを観察することができます。



さまざまな海の生きものの生活場所となっている流れ藻

磯にはたくさんの種類のエビやヤドカリ、カニがいます。ここではそのうち、海の博物館の観察会でよく見られる種類を紹介します。それぞれの種類について、標準和名、科名、学名、観察の際に役立つ特徴や生息場所、磯でよく見られる大きさ、日本国内での分布範囲が記されています。体の各部の名称や大きさのめやすは3ページの図を参照して下さい。

### 十脚甲殻類の分類単位



## エビの仲間

### ■ サラサエビ (サラサエビ科)

学名 *Rhynchocinetes uritai* Kubo, 1942

特徴 複雑な赤いしまと白い輪紋をもつ美しいエビです。潮下帯の石の下に群れており、大潮の干潮時に観察できます。額角と頭胸甲の間に関節を持つことがサラサエビ科の特徴です。

長さ 約4 cm

分布 房総半島以南の南日本



■ イソスジエビ (テナガエビ科)

学名 *Palaemon pacificus* (Stimpson, 1860)

特徴 体は透明で、甲では斜めに、腹節では横向きに黒く、細いしまが走っています。額角の先端はやや上向きに曲がっています (7ページ参照)。潮だまりの石や海藻のかげにすんでいます。

長さ 約3cm

分布 北海道以南の日本各地



■ スジエビモドキ (テナガエビ科)

学名 *Palaemon serrifer* (Stimpson, 1860)

特徴 模様や生息場所がイソスジエビと似ていますが、腹節を走るしまが少なく、短いことみくせつで区別できます。また、額角の先端がほぼまっすぐ前を向いていることもイソスジエビとのちがいです (7ページ参照)。

長さ 約3cm

分布 北海道以南の日本各地



■ アシナガモエビモドキ (モエビ科)

学名 *Heptacarpus futirostris* (Bate, 1888)

特徴 体の地色は赤褐色や淡緑色せきかつしよくたんりよくしよくなどさまざまです。頭胸甲には赤い点がななめに列を作っていますあし。脚には茶色いしま模様があります。潮だまりの石のかげなどにすんでおり、特に春先にたくさん見られます。

長さ 約3cm

分布 房総半島以南の南日本



■ イソテッポウエビ (テッポウエビ科)

学名 *Alpheus* sp.

特徴 腹節の地色は白く、幅の広い横向き  
の黒帯があります。この模様によっ  
て、磯にすむ他のテッポウエビの仲  
間と区別できます。第1はさみ脚の  
片方が大きく、これで大きな音を出  
します。石の下にすんでいます。

長さ 約3cm

分布 山形県以南の日本各地



■ マダラテッポウエビ (テッポウエビ科)

学名 *Alpheus pacificus* Dana, 1852

特徴 体の地色は褐色や淡緑色などさまざ  
まです。腹節では淡い斑紋がたてに  
列を作っています。第1はさみ脚の  
片方が大きく、これで大きな音を出  
します。潮だまりの石の下にすんで  
います。

長さ 約5cm

分布 房総半島以南の南日本



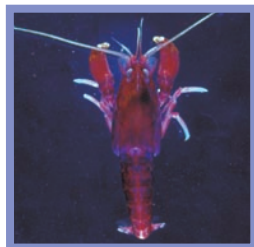
■ ムラサキヤドリエビ (テッポウエビ科)

学名 *Arete dorsalis* Stimpson, 1860

特徴 常にムラサキウニというウニのとげ  
の間にすんでいます。体は全体的に  
濃い紫色で、背中を中心線上には淡  
い線がたてに走っています。テッポ  
ウエビの仲間ですが、音を出すこと  
はできません。

長さ 約1cm

分布 房総半島以南の南日本



## ■ テッポウエビモドキ (テッポウエビ科)

**学名** *Betaeus granulimanus* Yokoya, 1927  
**特徴** 全体的に緑褐色で、第1はさみ脚は細かいつぶ状の突起で覆われています。この突起によって、磯にすむ他のテッポウエビの仲間と区別できます。潮だまりの石の下にすんでいます。この種類も音を出すことはできません。

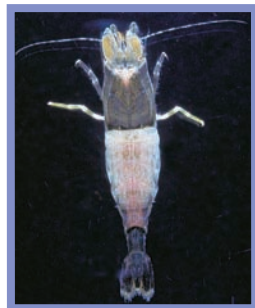
**長さ** 約5 cm  
**分布** 房総半島以南の南日本



## ■ トゲエビジャコ (エビジャコ科)

**学名** *Syncrangan angusticauda* (De Haan, 1849)  
**特徴** 頭胸甲に低い隆起をもつ、ややずんぐりしたエビです。頭胸甲と体の後方は緑褐色で、腹節の大部分は淡い色をしています。潮だまりの中でも砂のたまった場所を好みます。

**長さ** 約3 cm  
**分布** 北海道以南の日本各地



## ヤドカリの仲間

## ■ イソヨコバサミ (ヤドカリ科)

**学名** *Clibanarius virescens* (Krauss, 1843)  
**特徴** 左右のはさみ脚の長さはほぼ等しく、はさみ脚と歩脚は緑褐色で、この先端は黄色を帯びています。潮だまりではごく普通に見られますが、驚くと貝殻の奥まで引っこんでしまうため、しばらく待たないと特徴である脚の様子は確認できません。

**幅** 約3 cm  
**分布** 房総半島以南の南日本



■ ケブカヒメヨコバサミ (ヤドカリ科)

**学名** *Paguristes ortmanni* Miyake, 1978  
**特徴** 左右のはさみ脚の長さはほぼ同じです。はさみ脚と歩脚はくすんだオレンジ色で、毛がたくさんはえています。眼柄には茶色いたての線が走っています。

**幅** 約3cm

**分布** 北海道以南の日本各地



■ ホンヤドカリ (ホンヤドカリ科)

**学名** *Pagurus filholi* (De Man, 1887)  
**特徴** はさみ脚や歩脚は緑褐色で、はさみ脚の先端は淡い色をしています。歩脚の先端は黒く、その手前によく目立つ白い部分があります。イソヨコバサミとともに、潮だまりでは数の多いヤドカリです。

**幅** 約2cm

**分布** 北海道以南の日本各地



■ ケアシホンヤドカリ (ホンヤドカリ科)

**学名** *Pagurus lanuginosus* De Haan, 1849  
**特徴** はさみ脚や歩脚の地色は緑色で、黒い点が列をなしています。はさみ脚には毛がたくさんはえています。第1、第2触角ともオレンジ色でよく目立ちます。

**幅** 約2cm

**分布** 北海道以南の日本各地



## ■ クロシマホンヤドカリ(ホンヤドカリ科)

学名 *Pagurus nigrivittatus* Komai, 2003

特徴 はさみ脚は茶色で、薄い紫色の細かい突起に覆われています。歩脚には数本の褐色のたてじまがあります。この歩脚の模様によって、磯にすむ他のヤドカリと区別できます。

幅 約2 cm

分布 房総半島以南の南日本



## ■ イソカニダマシ(カニダマシ科)

学名 *Petrolisthes japonicus* (De Haan, 1849)

特徴 カニ型をしたヤドカリの仲間の中では、磯で最もよく見られる種類です。全体的に黒っぽいものが多く、歩脚は黒と白のしま模様です。石の下にあり、石をおこすとすばやくかげになる方へ逃げます。

幅 約3 cm

分布 青森県以南の日本各地



## ■ コブカニダマシ(カニダマシ科)

学名 *Pachycheles stevensii* Stimpson, 1858

特徴 全体的に紫がかった灰色で、はさみ脚は左右で大きさが異なります。はさみには細かいつぶ状の突起が列をなしており、歩脚には毛がたくさんはえています。イソカニダマシとははさみの突起や色彩で区別できます。石の下にすんでいます。

幅 約3 cm

分布 青森県以南の日本各地



## カニの仲間

### ■ カネココブシ (コブシガニ科)

学名 *Philyra kanekoi* Sakai, 1934

特徴 甲はほぼ円形で、背中<sup>の</sup>の中央部がやや山なりに盛り上がり<sup>ます</sup>。その両側は浅く<sup>く</sup>ぼんでいます。甲の色はほぼ一様に緑褐色や、白と黒の雲紋模様<sup>の</sup>のものなど、個体によって差があります。潮だまりの中でも砂利のたまった場所を好みます。

幅 約2cm

分布 房総半島以南の南日本



### ■ イツカクガニ (モガニ科)

学名 *Menaethius monoceros* (Latreille, 1825)

特徴 甲はほぼ三角形で、額角と、眼の上にあるとげが鋭く尖っているため、3本の角をもっているように見えます。全体的に緑褐色で、色の濃淡には個体差があります。石に生えた海藻の間などで見られます。

幅 約3cm

分布 房総半島以南の南日本



### ■ ヨツハモガニ (モガニ科)

学名 *Pugettia quadridens* (De Haan, 1837)

特徴 甲は洋梨型で、横がわにはよく目立つとげがはえています。体に海藻の切れはしなどをつけていることが多く、これを取り除くと甲の表面はなめらかです。潮だまりの石の下などで多く見られます。

幅 約4cm

分布 北海道以南の日本各地





## ■ イソクズガニ (ケアシガニ科)

**学名** *Tiarinia cornigera* (Latreille, 1825)  
**特徴** 甲は洋梨型で、表面には海藻の切れはしやカイメン、ホヤのかげらなどをびっしりとつけています。これを取り除くと、甲の表面は細かいつぼ状の突起に覆われています。海藻がはえた潮だまりの壁面などでじっとしています。

**幅** 約3 cm

**分布** 房総半島以南の南日本



## ■ ヒメソバガラガニ (ヤワラガニ科)

**学名** *Elamena truncata* (Stimpson, 1858)  
**特徴** 甲はほぼ円形で、その表面は平らです。細いはさみ脚や歩脚をもっています。全体的に黒味を帯びており、たいてい、甲にはよく目立つ白い紋があります。石にはえた海藻の間などで見られます。

**幅** 約1 cm

**分布** 房総半島以南の南日本



## ■ ヤワラガニ (ヤワラガニ科)

**学名** *Halicarcinus messor* (Stimpson, 1858)  
**特徴** 甲はほぼ円形で、へら状の額角が斜め上を向いてつき出しています。はさみ脚や歩脚は細く、雄のはさみ脚は歩脚に比べて明らかに太くなります。潮だまりの中の海藻のかげなどで生活しています。

**幅** 約1 cm

**分布** 青森県以南の日本各地



### ■ イシガニ (ワタリガニ科)

**学名** *Charybdis japonica* (A. Milne Edwards, 1861)  
**特徴** 甲は扇型で、全体的に暗緑色と淡緑色のまだら模様をしています。眼と眼の間には先端のとがった6本の歯が並んでいます。ワタリガニ科の多くの種では、最後の歩脚の先端がオール状になっています。大きな石の下などにいます。

**幅** 約10cm

**分布** 房総半島以南の南日本



### ■ ベニツケガニ (ワタリガニ科)

**学名** *Thalamita pelsarti* Montgomery, 1931  
**特徴** 眼と眼の間がイシガニに比べて広く、鮮やかな赤色で縁取られています。ここには6本の歯があります。甲は緑褐色で、歩脚はピンク色がかかっています。大きな石の下などに隠れています。

**幅** 約10cm

**分布** 房総半島以南の南日本



### ■ フタバベニツケガニ (ワタリガニ科)

**学名** *Thalamita sima* H. Milne Edwards, 1834  
**特徴** 眼と眼の間に目だつた歯がないことでイシガニやベニツケガニと区別できます。全体的に褐色で、淡いまだら模様で覆われています。大きな石の下などに隠れています。

**幅** 約8cm

**分布** 北海道以南の日本各地



## ■ スベスペマンジュウガニ (オウギガニ科)

学名 *Atergatis floridus* (Linnaeus, 1767)

特徴 全体的に地色は暗褐色で、甲には淡い色のまだら模様があります。甲はほぼ楕円形で光沢があり、山なりに盛り上がっています。石の下でじっとしています。有毒種なので食べると危険です。

幅 約6 cm

分布 房総半島以南の南日本



## ■ オウギガニ (オウギガニ科)

学名 *Leptodius exaratus* (H. Milne Edwards, 1834)

特徴 甲はほぼ楕円形で、後ろがわには短い毛がたくさんはえています。表面は平らで、浅い溝が入っています。模様はさまざまで、明るい灰色や黒味の強いものなどがみられます。潮だまりの石をおこすと、この仲間の中で一番よく見られます。

幅 約3 cm

分布 房総半島以南の南日本



## ■ トガリオウギガニ (オウギガニ科)

学名 *Cycloxanthops truncatus* (De Haan, 1837)

特徴 オウギガニに似ていますが、眼と眼の間が前方につき出ていることで区別できます。この部分を腹(裏)がわからみると薄くなっており、より目立ちます。模様は個体によって大きく異なります。潮だまりの石の下などに隠れています。

幅 約3 cm

分布 房総半島以南の南日本



### ■ ゴイシガニ (オウギガニ科)

学名 *Palapedia integra* (De Haan, 1837)

特徴 甲はほぼ円形で、全体的に白っぽいものが多く、名前のとおり碁石のようです。眼と眼の間は浅い溝によって4つに分かれています。潮だまりの石をどかし、さらにその下の砂を掘ると見つかることがあります。

幅 約2 cm

分布 房総半島以南の南日本



### ■ ヒメオウギガニ (オウギガニ科)

学名 *Paraxanthias elegans* (Stimpson, 1858)

特徴 甲はほぼ楕円形で、はさみ脚は左右で大きさが異なります。歩脚にはよく目立つ毛がたくさんはえています。模様は個体によって差がありますが、いずれも褐色を基本としています。石の下などに隠れています。

幅 約3 cm

分布 房総半島以南の南日本



### ■ トラノオガニ (ケブカガニ科)

学名 *Benthopanope pearsei* (Rathbun, 1932)

特徴 甲はほぼ楕円形で、はさみ脚は左右で大きさが異なります。甲には、眼の後ろあたりに横に列をなした短い毛があります。ウミトラノオという海藻の根元にいることからこの名前がつきましたが、別の種類の海藻のかげでも見られます。

幅 約2 cm

分布 房総半島以南の南日本



## ■ イボイワオウギガニ (イワオウギガニ科)

学名 *Eriphia ferox* Koh & Ng, 2008

特徴 眼は赤く、甲は丸みのある六角形で、細かいつぶ状の突起で覆われています。はさみ脚は強大で、左右で大きさが異なり、表面には短いとげが密生しています。水面より高い位置の、岩の割れ目などに隠れています。

幅 約7 cm

分布 房総半島以南の南日本



## ■ ヒライソガニ (モクスガニ科)

学名 *Gaetice depressus* (De Haan, 1833)

特徴 甲はほぼ四角形で、表面は平らです。雄のはさみ脚はかなり大きくなります。色彩はさまざまですが、甲や第3顎脚がっきやくの形を観察すると、すべて同じ種類であることがわかります（7ページ参照）。石の下などでごく普通に観察できます。

幅 約4 cm

分布 北海道以南の日本各地



## ■ イソガニ (モクスガニ科)

学名 *Hemigrapsus sanguineus* (De Haan, 1835)

特徴 全体的に緑と黒のまだら模様をしています。この模様は、さまざまな模様をもつヒライソガニには見られないため、両種を区別するときの特徴となります。また、甲がヒライソガニに比べてやや山なりに盛り上がります。石の下などに隠れています。

幅 約5 cm

分布 北海道以南の日本各地



## ■ イワガニ (イワガニ科)

**学名** *Pachygrapsus crassipes* Randall, 1840  
**特徴** 甲はほぼ四角形で、褐色の横すじが走っています。大きなものでは、はさみ脚や歩脚は赤味を帯びています。潮だまりの縁の、岩の隙間などに隠れており、水の中にいることはほとんどありません。

**幅** 約5cm

**分布** 北海道以南の日本各地



## ■ オキナガレガニ (イワガニ科)

**学名** *Planes major* (MacLeay, 1838)  
**特徴** 甲は丸みを帯びた四角形で、光沢があります。歩脚の外がわには短い毛がたくさんはえています。主に流れ藻の上で生活しており、これらが岸に打ち上げられたときに観察することができます。

**幅** 約3cm

**分布** 北海道以南の日本各地



## ■ ショウジンガニ (ショウジンガニ科)

**学名** *Guinusia dentipes* (De Haan, 1835)  
**特徴** 甲は丸みを帯びた四角形で、浅い溝が走り、細かいつぶ状の突起も見られます。はさみ脚は細かいつぶ状の突起が列を作り、歩脚ではとげが目立ちます。全体的に赤褐色をしています。千葉県南部では「いそっぴ」と呼ばれ、みそ汁などに入れて好んで食べられます。

**幅** 約15cm

**分布** 房総半島以南の南日本



## ○名前を調べるための本

- ・酒井 恒. 1976. 日本産蟹類. 461 pp. (和文), 251 pp. (図版). 講談社.
- ・三宅貞祥. 1982. 原色日本大型甲殻類図鑑 (I). 261 pp. 保育社.
- ・三宅貞祥. 1983. 原色日本大型甲殻類図鑑 (II). 277 pp. 保育社.
- ・武田正倫. 1983. 原色甲殻類検索図鑑. 284 pp. 北隆館.
- ・西村三郎 (編著). 1995. 原色検索日本海岸動物図鑑 [II]. 663 pp. 保育社.
- ・村岡健作・小田原利光 (監修). 1995. カラー図鑑カニ百科. 159 pp. 成美堂出版.
- ・財団法人千葉県史料研究財団 (編). 2000. 千葉県の自然誌 本編7 千葉県の動物  
2 海の動物. 812 pp. 千葉県.
- ・峯水 亮. 2000. ネイチャーガイド海の甲殻類. 344 pp. 文一総合出版.
- ・加藤昌一・奥野淳兒. 2001. エビ・カニガイドブック  
一八丈島の海から一. 157 pp. 阪急コミュニケーションズ.

## ○読み物

- ・桑村哲生ほか. 1981. 渚の生物. 257 pp. 海鳴社.
- ・武田正倫. 1978. グリーンブックス 41 カニの生態と観察. 94 pp.  
ニュー・サイエンス社.
- ・酒井 恒. 1980. 蟹 その生態の神秘. 299 pp. 講談社.
- ・武田正倫. 1992. カニは横に歩くとは限らない. 236 pp. PHP 研究所.
- ・武田正倫. 1995. エビ・カニの繁殖戦略. 239 pp. 平凡社.
- ・中嶋康裕・沼田英治. 1997. 虫たちがいて、ぼくがいた. 223 pp. 海游舎.

## 海の生きもの観察ノート①

## 磯でみられるエビ・ヤドカリ・カニ

2001年(平成13年)12月28日 初版発行

2014年(平成26年)3月20日 改訂初版発行

編集・執筆 奥野淳兒 (千葉県立中央博物館分館 海の博物館主任上席研究員)  
 発行 千葉県立中央博物館 分館海の博物館  
 〒299-5242 千葉県勝浦市吉尾123  
 電話 0470-76-1133 (代表)  
 (本誌掲載内容の無断転載は固くお断りします)

